

五所川原市公共下水道事業計画（変更）
（五所川原処理区）

事業計画書
（下水道法）

令和 7 年度

青 森 県 五 所 川 原 市

五所川原市公共下水道事業計画（変更）

目 次

- I．五所川原市公共下水道事業計画の変更を必要とする理由
- II．五所川原市公共下水道事業計画変更計画書
- III．五所川原市公共下水道事業計画変更計画説明書

I. 五所川原市公共下水道事業計画の変更を必要とする理由

I. 五所川原市公共下水道事業計画の変更を必要とする理由

本市の公共下水道事業は、昭和 49 年 12 月 12 日付けをもって、当初の下水道法事業認可を受け、その後昭和 58 年度に松島団地（東部処理系統）34ha、広田団地（南部処理系統）43ha を追加、昭和 60 年度に西部中継ポンプ場の廃止、松島污水ポンプ場の規模・能力の変更及び圧送のルート・口径の変更、昭和 63 年度に予定処理区域 95ha の追加、浄化センター処理施設の増設の変更を行い、平成 2 年度に雨水排水区域、幹線ルート及び幹線断面の変更、平成 7 年度に予定処理区域（中部処理系統）約 70ha を拡大、平成 12 年度に全体計画の目標年度を平成 17 年度から平成 27 年度に変更、事業計画期間を 10 年間延伸し、平成 22 年度とし、事業計画区域（污水：中部処理系統）51ha の追加、広田処理場の污水ポンプ場への変更を行い、平成 22 年度に事業期間の延伸、平成 26 年度に汚泥脱水機的能力変更を行い、平成 27 年度には、事業期間の延伸と併せて、改正下水道法に基づく計画書等の変更を行い、令和 2 年度に事業計画期間の延伸を行い、全体計画 735ha（污水・雨水）のうち事業計画区域（污水）541ha、事業計画区域（雨水）333.4ha として下水道事業を推進しているところで、令和 6 年度末においては、污水は事業計画面積に対し、541.0ha（約 100%）の整備が完了し、雨水は約 236ha（約 71%）の整備が完了している。

事業計画について、事業計画期間を令和 7 年度から令和 12 年に延伸し、全体計画と合わせて、計画フレーム、計画諸元を変更するものである。

主な計画変更の概要を以下に示す。

イ 全体計画（見直し）の概要

（污水）

【計画区域】	735ha	
【目標年度】	令和 17 年度	
【計画人口】	20,400 人 16,800 人	
【計画水量】	・ 日平均	7,390 m ³ /日 5,900 m ³ /日
	・ 日最大	9,270 m ³ /日 7,420 m ³ /日
	・ 時間最大	13,900 m ³ /日 11,140 m ³ /日
【施設設計水質】	・ B O D	200 mg/L
	・ S S	160 mg/L

（雨水）

【計画区域】	735ha
・ 雨水流出量算定式	$Q=1/360 \times C \cdot i \cdot A$
・ 降雨強度公式	$i=3,600/t+30$
・ 確率年	10 年
・ 時間降雨量	40 (mm/h)

ロ 事業計画変更の概要

（污水）

【計画区域】	541ha	
【目標年度】	令和 7 年度 令和 12 年度	
【計画人口】	17,670 人 15,700 人	
【計画水量】	・ 日平均	6,210 m ³ /日 5,290 m ³ /日
	・ 日最大	7,840 m ³ /日 6,700 m ³ /日
	・ 時間最大	11,750 m ³ /日 10,060 m ³ /日
【施設設計水質】	・ B O D	200 mg/L
	・ S S	160 mg/L

（雨水）

【計画区域】	333.4ha
・ 雨水流出量算定式	$Q=1/360 \times C \cdot i \cdot A$
・ 降雨強度公式	$i=3,600/t+30$
・ 確率年	10 年
・ 時間降雨量	40 (mm/h)

Ⅱ. 五所川原市公共下水道事業計画変更計画書

公 共 下 水 道 管 理 者 五所川原市長 佐々木 孝昌

工事着手の予定年月日 昭和 49 年 12 月 12 日

令和 8 年 3 月 31 日

工事完成の予定年月日 令和13年 3月31日

第 1 表の 1

予 定 処 理 区 域 調 書 (汚 水)			
予定処理区域 の面積	// ヘクタール 541	予定処理区域 内の地名	五所川原市区域は下水道計画 一般図に示すとおり
処理区の名称	面 積 (単位：ヘクタール)		摘 要
五所川原 処理区	// 541		

第 1 表の 2

予 定 排 水 区 域 調 書 (雨 水)			
予定排水区域 の面積	// ヘクタール 333.4	予定排水区域 内の地名	五所川原市区域は下水道計画 一般図に示すとおり
排水区 の 名称	面 積 (単位：ヘクタール)		摘 要
西部 排水区	// 156.30		
中部第 1 排水区	// 41.10		
中部第 2 排水区	// 2.30		
中部第 3 排水区	// 18.60		
中部第 4 排水区	// 4.90		
中部第 5 排水区	// 24.80		
東部第 1 排水区	// 14.54		
東部第 2 排水区	// 13.77		
東部第 3 排水区	// 5.69		
南部第 2 排水区	// 8.40		
南部第 5 排水区	// 43.00		

第 2 表

計 画 降 雨 調 書			
排水区の名称	計 画 降 雨		摘 要
	1 時間当たりの降雨量 (単位：ミリメートル)	確率年	
西部排水区	40	10 年確率	
中部第 1 排水区	40	10 年確率	
中部第 2 排水区	40	10 年確率	
中部第 3 排水区	40	10 年確率	
中部第 4 排水区	40	10 年確率	
中部第 5 排水区	40	10 年確率	
中部第 6 排水区	40	10 年確率	
東部第 1 排水区	40	10 年確率	
東部第 2 排水区	40	10 年確率	
東部第 3 排水区	40	10 年確率	
南部第 2 排水区	40	10 年確率	
南部第 5 排水区	40	10 年確率	

第3表の1

吐 口 調 書 (汚 水)							
処理区 の名称	主要な 吐口の 種類	主要な吐口 の番号 又は名称	主要な 吐口 の位置	計画 放流量 (m3/ 秒)	放流先 の名称	放流先 の水位	摘 要
五所川原 処理区	処理 施設	五所川原市 浄化センター 吐口	字幾世森 地先	0.091 0.078	旧十川	低水位 T. P+2.78m	西部第1雨 水幹線に接 続後旧十川 へ放流

第3表の2

吐 口 調 書 (雨 水)							
排水区 の名称	主要な 吐口の 種類	主要な吐口 の番号 又は名称	主要な 吐口 の位置	計画 放流量 (m3/秒)	放流先 の名称	放流先 の水位	摘 要
西部 排水区	ポンプ 施設	五所 川原市 浄化 センター	字幾世森 地先	12.639 12.626	旧十川	高水位 T. P+7.49m	点検方法: 巡視点検 頻度:年1回
中部第1 排水区	雨水 管渠	No. 1	字一ツ谷 地先	7.190	旧十川	高水位 T. P+5.96m	点検方法: 巡視点検 頻度:年1回
中部第2 排水区	雨水 管渠	No. 2	松島町 一丁目 地先	3.051	旧十川		
中部第3 排水区	雨水 管渠	No. 3	中央 一丁目 地先	2.670	旧十川	高水位 T. P+6.30m	点検方法: 巡視点検 頻度:年1回
中部第4 排水区	雨水 管渠	No. 4	中央 四丁目 地先	1.744	旧十川	高水位 T. P+6.56m	点検方法: 巡視点検 頻度:年1回
中部第5 排水区	雨水 管渠	No. 5	中央 四丁目 地先	4.559	旧十川	高水位 T. P+6.71m	点検方法: 巡視点検 頻度:年1回
東部第1 排水区	雨水 管渠	No. 6	字一ツ谷 地先	9.627	旧十川		
東部第2 排水区	雨水 管渠	No. 7	松島町 一丁目 地先	1.987	旧十川		
東部第3 排水区	雨水 管渠	No. 8	大字吹畑 字藤巻 地先	6.946	旧十川		
南部第2 排水区	雨水 管渠	No. 14	大字姥范 字船橋 地先	1.359	二本柳地 区かんが い排水路		
南部第5 排水区	雨水 管渠	No. 13	大字姥范 字桜木 地先	5.177	旧十川		

第 4 表の 1

管 渠 調 書 （汚水）					
処理区 の名称	主要な管渠の 内のり寸法 （単位： ミリメートル）	延 長 （単位： メートル）	備考	点検 箇所数 （箇所）	摘要
五所川原 処理区	○150	〃 170	圧送管		点検方法： 腐食の恐れがあ る管渠は 5 年に 1 回の割合で調査を 行う。
	○200	〃 440	圧送管		
	○250	〃 100	圧送管		
	○250	〃 480	H P 管		
	○300	〃 600	圧送管		
	○300	〃 760	H P 管		
	○350	〃 900	〃		
	○400	〃 1, 350	〃		
	○450	〃 850	〃		
	○500	〃 810	〃	1	
	○600	〃 1, 710	〃	1	
	○700	〃 800	〃		
	○800	〃 1, 740	〃		
	○900	〃 1, 320	〃	1	
	○1200	〃 220	〃		
	計	〃 12, 250		3	

第 4 表の 2 (1)

管渠調書（雨水）			
排水区 の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位：ミリメートル)	延 長 (単位：メートル)	摘 要
西部排水区	U800×1300	// 150	
	U1100×1100	// 500	
	□1100×1200	// 130	
	U1200×1100	// 270	
	□1200×1100	// 210	
	U1200×1200	// 980	
	□1300×1300	// 40	
	U1400×1400	// 180	
	□1400×1400	// 430	
	U1500×1300	// 90	
	U1500×1500	// 100	
	U1600×1300	// 30	
	□1700×1500	// 130	
	U1700×1700	// 70	
	U1800×1500	// 270	
	U1800×1800	// 280	
	□1800×1800	// 170	
	□1900×1500	// 60	
	U1900×1700	// 80	
	□1900×1700	// 90	
	U1900×1800	// 110	

第 4 表の 2 (2)

管渠調書 (雨水)			
排水区 の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位：ミリメートル)	延 長 (単位：メートル)	摘 要
西部排水区	□2000×1500	// 50	
	U2000×1600	// 110	
	U2000×1700	// 270	
	U2000×1800	// 160	
	U2000×1900	// 10	
	U2900×1900	// 390	
	U3000×2000	// 10	
	□3000×2100	// 50	
	U3500×2500	// 110	
	□3000×2100	// 90	
	□3600×2500	// 220	
	計	// 5,840	

第 4 表の 2 (3)

管渠調書 (雨水)			
排水区 の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位：ミリメートル)	延 長 (単位：メートル)	摘 要
中部第 1 排水区	U1200×1200	// 90	
	□1200×1200	// 20	
	U1300×1300	// 340	
	□1300×1300	// 610	
	□1400×1400	// 280	
	□1700×1700	// 220	
	□1900×1900	// 80	
	□2000×1000	// 290	
	□2000×1000	// 110	
	□2000×2000	// 60	
	□2100×2100	// 10	
	計	// 2, 110	
中部第 2 排水区	□1200×1200	// 10	
	U1400×1400	// 60	
	□1400×1400	// 20	
	U1500×1500	// 140	
	U1600×1600	// 10	
	計	// 240	

第 4 表の 2 (4)

管渠調書 (雨水)			
排水区 の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位：ミリメートル)	延 長 (単位：メートル)	摘 要
中部第 3 排水区	U1100×1100	// 90	
	U1200×1000	// 10	
	U1400×1400	// 120	
	□1500×1500	// 510	
	□1700×1700	// 170	
	計	// 900	
中部第 4 排水区	□1300×1300	// 140	
	計	// 140	
中部第 5 排水区	□1200×1200	// 20	
	U1300×1200	// 160	
	□1300×1200	// 150	
	□1300×1300	// 220	
	□1500×1200	// 60	
	□1500×1500	// 300	
	□1600×1200	// 200	
	□1600×1400	// 290	
	□1900×1800	// 10	
	計	// 1,410	

第 4 表の 2 (5)

管渠調書 (雨水)			
排水区 の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位：ミリメートル)	延 長 (単位：メートル)	摘 要
東部第 1 排水区	U2000×1600	// 110	
	U2100×1600	// 330	
	U2100×1700	// 150	
	U2300×1800	// 160	
	U2400×1900	// 120	
	U2700×2000	// 220	
	U2700×2100	// 170	
	U2800×2100	// 240	
	計	// 1, 500	
東部第 2 排水区	U1400×1100	// 150	
	U1500×1200	// 220	
	計	// 370	
東部第 3 排水区	U2200×1700	// 60	
	U2300×1700	// 320	
	U2300×1800	// 70	
	U2400×1700	// 60	
	U2400×1900	// 90	
	計	// 600	

第 4 表の 2 (6)

排水区 の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位：ミリメートル)	延 長 (単位：メートル)	摘 要
南部第 2 排水区	U1200×1200	// 100	
	計	// 100	
南部第 5 排水区	U1400×1300	// 380	
	□1500×1400	// 540	
	U2500×1600×1800	// 140	
	U2700×1800×2000	// 180	
	U3000×1800×2100	// 120	
	□2000×1800	// 310	
	計	// 1,670	

第 5 表の 1

処 理 施 設 調 書								
終末処理場等の名称	位 置	敷地面積 (単位 ヘクタール)	計画放流水質 BOD mg/L	処理方法	処理能力		計画 処理 人口 (人)	摘 要
					晴天日 最大 (単位 立方 メートル)	雨天 日最大 (単位 立方 メートル)		
〃 五所川原市 浄化センター	〃 五所川原市大字長 橋字広野 字幾世森	〃 5.0	〃 15	〃 標準 活性 汚泥法	〃 10,554	〃 —	17,670 15,700	・計画下水流量 (日最大) 7,840m ³ /日 6,700m ³ /日 ・全体計画 (日最大) 9,270m ³ /日 7,420m ³ /日 ・流入水質 (事業計画) ・BOD 〃 200mg/L ・SS 〃 160mg/L ・処理水質 〃 BOD 15mg/L 〃 SS 30mg/L

※処理施設の処理能力は、反応タンクを対象とし、設計基準（6－8 時間）の滞留時間（HRT）が確保（処理）できる量を処理能力として試算した。

【根拠】

- ・反応タンク容量 1,759 (m³/池)
- ・池数 2 池

【試算式】

- ・容量 ⇒ 1,759 (m³) × 2 (池) = 3,518m³
- ・HRT (滞留時間) 8 時間

$$\begin{aligned}
 \text{処理能力} &= \frac{\text{池容量 (m}^3\text{)} \times 24 \text{ (時間)}}{\text{滞留時間 8 (時間)}} = \frac{3,518 \times 24}{8} \\
 &= 10,554 \text{ m}^3
 \end{aligned}$$

第 5 表の 2

終末処理場等の敷地内の主要な施設						
終末 処理 場等 の 名称	主要な 施設の 名称	個数	構 造	能 力		摘 要
五所 川原 市 浄化 センター	流入管渠	1 式	鉄筋コンクリート 造り	流量	約 1.13m ³ /sec	
	沈 砂 池	1 池	鉄筋コンクリート 造り	水面積負荷	約 1,800 m ³ /m ² ・日	1/1
	主ポンプ	2 台	汚水ポンプ	揚水量	約 12m ³ /min	2/2 (うち 1 台予備)
	最初沈殿池	2 池	鉄筋コンクリート 造り	水面積負荷	約 50m ³ /m ² ・日	2/2
	反応タンク	2 池	鉄筋コンクリート 造り	滞留時間	約 8 時間	2/2
	送風機	3 台		風量	約 40m ³ /min	3/3 (うち 1 台予備)
	最終沈殿池	2 池	鉄筋コンクリート 造り	水面積負荷	約 20m ³ /m ² ・日	2/3
	塩素混和池	1 池	鉄筋コンクリート 造り	接触時間	15 分	1/1
	放流渠	1 式	鉄筋コンクリート 造り	流量	約 1.13m ³ /sec	
	汚泥濃縮 タンク	1 池	鉄筋コンクリート 造り	固形物負荷	60kg/m ² ・日	1/1
	汚泥消化 タンク	2 基	鉄筋コンクリート 造り	消化日数	約 25 日	2/2
	ガスタンク	1 基		容量	約 400m ³	1/1
	汚泥貯留槽	4 槽	鉄筋コンクリート 造り	容量	約 65m ³	4/4
	汚泥脱水機	1 基		固形物量	約 0.15tDs/h	1/1
	汚泥焼却炉	1 基		脱水ケーキ量	約 12Wt/日	1/1
	本 館	1 基	鉄筋コンクリート 造り	延床面積約	5,972 m ²	沈砂池、ポンプ室、 脱水機室、濃縮 タンク、消化加温 ボイラー室、発電機 室等を含む。

第 6 表の 1

ポンプ施設調書						
ポンプ 施設 の名称	処理区 の名称	ポンプ施設 の位置	敷地 面積 (単位 ヘク タール)	1 分間 の揚水量 (単位立方 メートル)		摘 要
				晴天時 最大	雨天時 最大	
松島 汚水 ポンプ場	五所川原	五所川原市 松島町 3 丁目	0.1	0.31		

第 6 表の 2

ポンプ施設の敷地内の主要な施設					
ポンプ 施設 の名称	主要な 施設 の名称	数	構 造	能 力	摘 要
松島 汚水 ポンプ場	ポンプ室	1 棟	鉄筋コンクリート造り 地上 1 階、地下 1 階		
	汚水 ポンプ	3 台		揚水量 1.6m ³ /分	

様式 1 施設設置に関する方針

主要施策	整備水準					事業の重点化・効率化の方針	中期目標を達成するための主要な事業	備考
	指標等		現在 (R6)	中期 目標 (R12)	長期 目標 (R17)			
汚水処理	下水道処理人口普及率		36%	36%	42%	人口減少等の社会情勢の変化を踏まえ、施設の規模や機能の適正化を図った上で、五所川原市浄化センターの老朽化対策を実施する。	五所川原市浄化センター改築更新工事	
	管路施設 (管渠)	緊急度Ⅰの延長（令和4年度時点：87mのうち）	－	－	－			
	管路施設 (マンホール)	緊急度Ⅰのマンホールの個所数（令和4年度時点：3箇所のうち）	－	－	－			
	下水処理場	中分類相当の健全度2以下の施設数(令和3年度時点：6施設のうち)	0施設	3施設	3施設			
	ポンプ場	中分類相当の健全度2以下の施設数(令和3年度時点：3施設のうち)	0施設	0施設	3施設			
浸水対策	計画降雨に対する整備が完了した面積の割合		71% (236ha)	71% (236ha)	71% (236ha)	浸水実績、頻度、被害状況に応じ、優先度を選定して効果的に事業を実施する。	－	
耐水化	水害時における機能確保保有率	処理場	－	－	－	－	－	耐水化計画位置付けなし
		ポンプ場	－	－	－	－	－	
高度処理	－		－	－	－	－	－	
耐震化	災害時における機能確保	主要な管渠	47%	47%	64%	老朽化対策等と調整を図り事業を実施する。	－	
		下水処理場	0%	0%	33%			
		ポンプ場	0%	0%	100%			
合流式下水道の改善	－		－	－	－	－	－	
汚泥の再利用	肥料として有効活用		100%	100%	100%	今後も汚泥の有効利用に努める。	－	

【汚水処理】

現況（令和 6 年度末）

A	行政人口	49,482	（人）
B	整備人口	17,945	（人）
C	整備面積	541	（ha）
⇒ B / A 整備人口普及率 36.3%			

中期目標（令和 12 年度）

A	行政人口	43,500	（人）
B	整備人口	15,700	（人）
C	整備面積	541	（ha）
⇒ B / A 整備人口普及率 36.1%			

長期目標（令和 17 年度）

A	行政人口	39,600	（人）
B	整備人口	16,800	（人）
C	整備面積	735	（ha）
⇒ B / A 整備人口普及率 42.4%			

【浸水対策】

現況の雨水施設で、直近の浸水被害の軽減が図られている。そのため中期目標は現状維持とした。

【汚泥の再利用】

現況の汚泥利用は、脱水ケーキ状で場外搬出としており、中間処理業者によりコンポストとして製品化されている。今後も継続していくとした。

様式2 施設の機能の維持に関する方針

a) 主要な施設に係る主な措置

i) 劣化・損傷を把握するために点検・調査の計画

主要な施設	点検・調査の計画
管渠施設	・ 概ね 5～15 年サイクルで管渠の点検を行う。点検の結果、異常の可能性のある箇所についてテレビカメラ等による調査を実施。 ・ 腐食の恐れがある管渠は 5 年に 1 回の割合で調査を行う。
汚水・雨水ポンプ施設（ポンプ本体）	・ 目視点検を月 1 回の頻度で行う。 ・ 概ね 30 年（目標耐用年数）を目途に改築の必要性を検討し、必要に応じて施設更新を行う。
水処理施設	・ 目視点検を月 1 回の頻度で行う。 ・ 概ね 30 年（目標耐用年数）を目途に改築の必要性を検討し、必要に応じて施設更新を行う。
汚泥処理施設	・ 目視点検を月 1 回の頻度で行う。 ・ 概ね 30 年（目標耐用年数）を目途に改築の必要性を検討し、必要に応じて施設更新を行う。

【管きよの点検方法】

マンホール内部の状況を地上から、目視又は、管口カメラ等を用いて行う。

【腐食の恐れがある管渠の調査】

圧送管の吐き出し口の下流のMHについて、5 年サイクルでTVカメラ等を用いて調査を行う。

【施設の分解点検】

概ね 5 年に 1 回の頻度で行う。

ii) 診断結果を踏まえた修繕・改築の判断基準

主要な施設	修繕・改築の判断基準
・ 管渠施設	・ 調査を行い、劣化が判明したのち、緊急度判定Ⅱ以下を対象に改築・修繕を行う。
・ 汚水・雨水ポンプ施設	・ 健全度判定Ⅱ以下のものを改築対象とし、リスクを踏まえ改築優先度を判定し、改築を行う。
・ 水処理施設	・ 健全度判定Ⅱ以下のものを改築対象とし、リスクを踏まえ改築優先度を判定し、改築を行う。
・ 汚泥処理施設	・ 健全度判定Ⅱ以下のものを改築対象とし、リスクを踏まえ改築優先度を判定し、改築を行う。

iii) 改築事業の概要（令和 8 年度～令和 12 年度）

主要な施設	改築事業の概要
・ 管渠施設	・ 延長 概ね 1.4km
・ 汚水・雨水ポンプ施設	・ 汚水ポンプ設備 (今後ストックマネジメント計画改定時に検討する)
・ 水処理施設	・ 水処理設備 (今後ストックマネジメント計画改定時に検討する)
・ 汚泥処理施設	・ 濃縮設備 ・ 消化設備 (今後ストックマネジメント計画改定時に検討する)

【処理施設の改築計画】

五所川原市浄化センターは、昭和 59 年 4 月の供用開始以来、約 40 年が経過し、処理場内で各設備の老朽化が見受けられる。各設備の老朽化が進行し、処理能力が低下する恐れがあるため、「五所川原市下水道ストックマネジメント」（事業期間：令和 4 年度～令和 8 年度）に基づき、老朽化が進行している設備から、順次、改築工事（長寿命化工事を含む）を実施している。

今後も五所川原市下水道ストックマネジメント計画に基づき設備の改築を実施していく予定である。

b) 施設の長期的改築の需要見通し

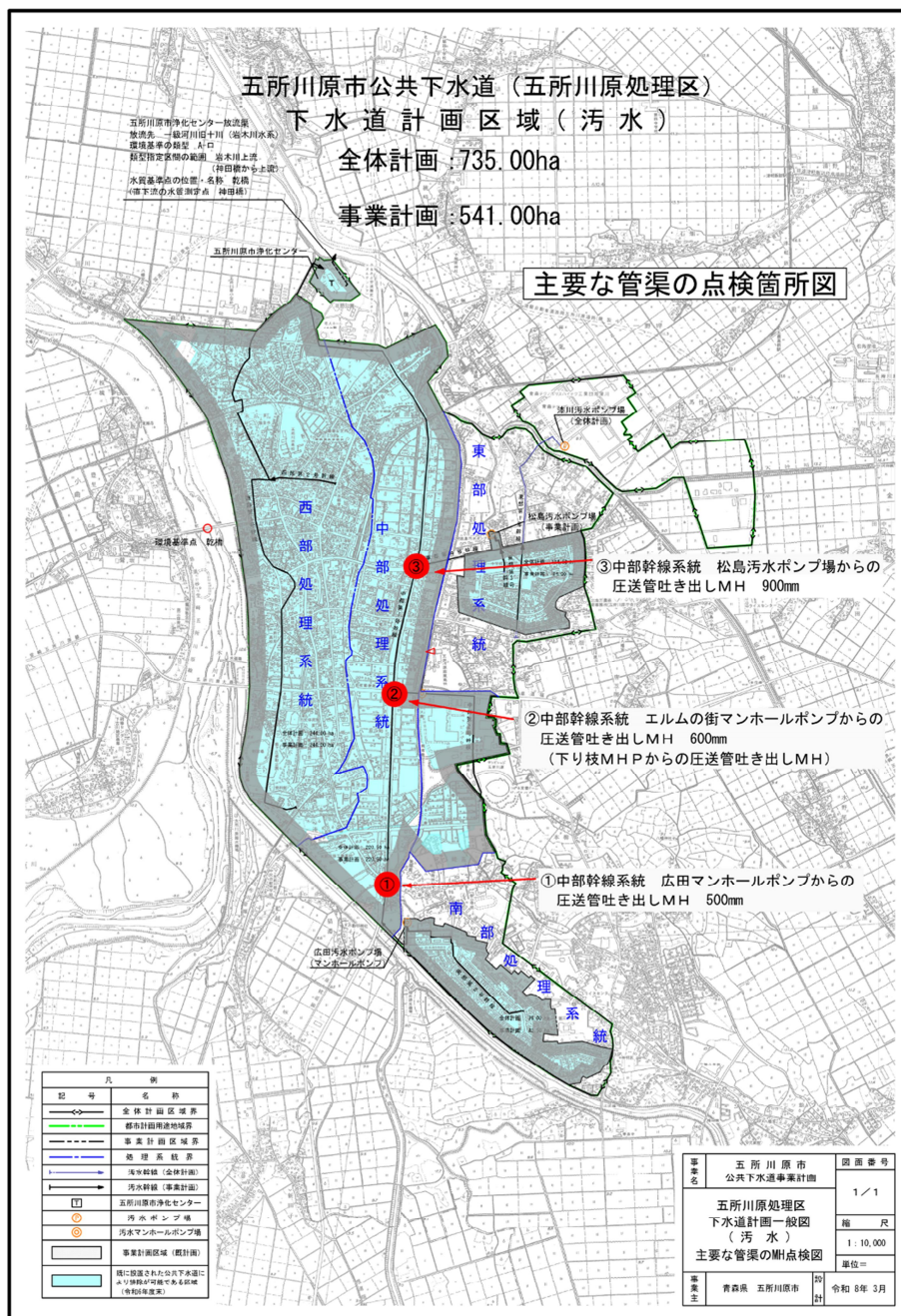
【管きょ】

改築の需要 見通し	試算の 対象時期	試算の前提条件
年当たり約3億円	100年	健全度予測式（管きょ）により試算

※管きょの改築については、標準耐用年数50年や目標耐用年数75年、健全度予測式による試算結果。

【主要な管きょの点検箇所】 3カ所

- 1 中部幹線系統 広田マンホールポンプ場からの吐き出しMH
⇒管径 500 mm
- 2 中部幹線系統 エルムの街マンホールポンプ場からの吐き出しMH
⇒管径 600 mm
- 3 中部幹線系統 松島污水ポンプ場からの吐き出しMH
⇒管径 900 mm



様式3 財政計画

(経費の部)

上段：既事業計画 下段：今回計画（単位：千円）

年度	イ 経費の部									
	建 設 改 良 費						起債元利 償還費	維持管理費	その他	合計
	管きよ		ポンプ場	処理場	計	うち用地費				
	污水管	雨水管								
令和 7 年度	15,769,188	4,618,093	150,700	6,863,545	27,401,526	140,000	26,005,235	10,770,043		64,210,076
迄	15,789,730	4,618,093	150,700	6,761,474	27,319,997	140,000	26,055,752	11,391,677	71,047	64,838,473
令和 8 年度	77,323	8,500		354,000	439,823		456,996	319,707	7,000	1,223,526
令和 9 年度	164,295			455,600	619,895		460,771	271,928	5,521	1,358,115
令和 10 年度	95,635			135,000	230,635		450,711	272,114	2,569	956,029
令和 11 年度	188,005			327,000	515,005		433,658	271,928		1,220,591
令和 12 年度	112,425			163,000	275,425		408,049	276,614		960,088
計 (R8-12)	637,683	8,500		1,434,600	2,080,783		2,210,185	1,412,291	15,090	5,718,349
合計	15,769,188	4,618,093	150,700	6,863,545	27,401,526	140,000	26,005,235	10,770,043		64,210,076
	16,427,413	4,626,593	150,700	8,196,074	29,400,780	140,000	28,265,937	12,803,968	86,137	70,556,822

【建設費と改築費の区分】

(単位:千円)

	建設改良費					
	管きよ		ポンプ場	処理場	計	うち用地費
	污水管	雨水管				
建設費	15,816,074	4,626,593	150,700	6,181,824	26,775,191	140,000
改築費	611,339			2,014,250	2,625,589	
合計	16,427,413	4,626,593	150,700	8,196,074	29,400,780	140,000

(財源の部)

上段：既事業計画 下段：今回計画 (単位：千円)

年度	ロ 財源の部										
	建設改良費						維持管理費及び起債償還費				合計
	国費	起債	市費	受益者負担金	その他	計	下水道使用料	他会計繰入金	その他	計	
令和7年度迄	10,083,972 9,912,357	14,522,930 14,565,720	2,067,882 2,116,292	724,254 732,147		27,401,526 27,329,004	13,547,181 13,782,098	21,599,259 21,584,565	1,662,110 2,142,806	36,808,550 37,509,469	64,210,076 64,838,473
令和8年度	201,140	206,000	32,682	1		439,823	371,337	369,495	42,871	783,703	1,223,526
令和9年度	301,245	287,800	30,625			619,670	367,407	356,280	14,758	738,445	1,358,115
令和10年度	90,550	109,500	30,505			230,555	363,864	347,952	13,658	725,474	956,029
令和11年度	230,065	254,200	30,505			514,770	360,096	322,213	23,512	705,821	1,220,591
令和12年度	103,700	141,000	30,505			275,205	356,252	326,803	1,828	684,883	960,088
計(R8-12)	926,700	998,500	154,150	1		2,080,023	1,818,956	1,722,743	96,627	3,638,326	5,718,349
合計	10,083,972 10,839,057	14,522,930 15,564,220	2,067,882 2,067,882	724,254 732,148		27,401,526 29,409,027	13,547,181 15,601,054	21,599,259 23,307,308	1,662,110 2,239,433	36,808,550 41,147,795	64,210,076 70,556,822

下水道使用料 ※関連資料	接続率	91	令和 6 年度末	⇒	95	令和 12 年度末
		講じる対策		市広報やホームページ等で、周知。戸別訪問の実施等		
	有収率	83	令和 6 年度末	⇒	88	令和 12 年度末
		講じる対策		蓋の交換、雨天時浸入水対策、排水設備の誤接合の調査の実施等		
	その他の講じる対策			下水道使用料金は必要に応じて見直しを行う。		